

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100046		
法人名	株式会社 ケアマインド		
事業所名	グループホームこころ川西		
所在地	兵庫県川西市大和西5丁目24-2		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/28/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/28/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和4年1月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、郊外の住宅街の中にあり、自然豊かな静かな環境に恵まれています。近隣の散歩を行ったり、スーパーで買い物やお茶を飲みに出掛け楽しんで頂いてましたが、現在コロナ感染の影響で行う事が出来ていません。又、自治会との交流(運動会、文化祭、防災訓練等)季節ごとの交流も行う事が出来ていませんが11月防災訓練に参加させて頂きました。一人一人の個性と自由を尊重し、のびのびと暮らして頂ける環境作りを心掛け、ご利用者様とご家族と職員が共に支え合いながら「役割」「楽しみ」「安らぎ」のある生活を目指しています。ご自身で出来る事は行って頂き個々の力が維持出来る様に取り組んでいます。季節の行事などを取り入れ楽しみを持って頂ける様に工夫しています。ご家族との面会の代わりに電話でお話して頂いたり、11・12月に入り緊急事態が解除後少しの時間ですが直接お会いして頂き面会出来る機会も取れました。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一昨年、昨年と2年間で3回の緊急事態宣言が発令されたが、10月以降減少に転じ終息への期待がでてきた、しかし、年末年始の休日明けを待っていたようにオミクロン株による新規感染者が急拡大、特に1月18日以降は、感染者数が過去最高を連日更新し、予断を許さない状況となってきた。前回の評価時では、(コロナ禍の1日も早い終息と終息後には～)と結んだが、今回は、そういう状況にない。調査時の家族アンケートでも、長引くコロナ禍で家族のストレスがたまってきていることが感じられた。長期戦を覚悟し、これまでのコロナ対応(家族との面会方法、外出自粛他)の見直しを検討してみてもはどうだろうか。(家族の協力を得てのズーム面会、蜜を避けての外出方法など)全職員の英知を集約されたい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員が中心となり「こんな施設にしたい」という思いを運営理念に「支援方針」として表現した。その結果として、地域密着型サービスの意義が盛り込まれた内容となった。思いを込めて実践に繋げている。	理念は開設当初の職員が中心となり、思いを支援方針として掲げた。見やすい場所に掲示して共有に努め、立ち止まって振り返るなど、思いを込めて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収の協力や自治会の賛助会員に加入しています。 地域行事、防災訓練は協力体制は整えておりましたが、本年度は開催されませんでした。	コロナ禍で今はできない状況だが、自治会へ加入しており、地域の祭り・防災訓練・子供会の廃品回収等日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加していませんが、地域の方がお電話や直接訪問され、その都度相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催は出来なかったですが、2ヶ月に一度施設の状況を書面にし連絡しています。サービスの透明性を図ると共に伺った内容については、改善や次回の取り組みに活かして行こうと思います。	コロナ禍で会議開催は自粛しているが、施設の運営状況と月報「こころ通信」を送付し、収束後は速やかに再開できるよう準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、社会福祉協議会、自治会等共に連携している。地域の方からの相談の中で必要な場合は、地域包括に繋げている。	コロナ感染症防止対策等については、市の担当からメール等で指導があった。地域包括支援センターや社会福祉協議会とも日頃から協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、全ての出入り口に施錠はしている。研修等では、職員は、「禁止の具体的な行為」は、理解している。身体拘束廃止委員会を設置し、廃止への取り組みを行い、効果も出ている。	廃止委員会でグレイゾーンと思われるケア等具体的な行動について検討し、全体会議で振り返っている。法人全体で委員会を立ち上げ拘束しないケアに取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で何が虐待にあたるか確認しあい、防止に努めている。	虐待防止委員会で接遇のあり方、声掛けや言葉遣い、研修内容など検討し防止に努めている。ストレスに関して気になる職員に対しては、管理者から話しかけるようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、研修等に参加して、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。現在、検討されている方はいない。必要時には支援を行って行く。	制度利用者は2名おられる。入職時に制度について研修し、資料は各フロアーにファイルしている。制度利用者の担当司法書士等と、話してできるいい関係作りが望まれる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書をもとに説明を行う。契約時及び随時不安や疑問を聴き、都度説明し納得して頂いている。	施設で出来る医療行為や看取りについては、時間を掛け丁寧に説明している。費用等変更がありうる項目については、別紙に作成し変更ごとに説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時に意見を伺う事が出来、運営推進会議会員の皆様には、書面で報告する事により、外部へ意見を出すと共に、運営に反映する事が出来ている。	コロナ禍で家族会も開けず、直接面談する機会が制限され、家族にもご不便・心配をおかけした。体調面の報告や持参頂きたいものがある時など、個別に対応して意見を伺うよう努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアー会議等で提案された内容を、施設長会議において代表者様も参加し、協議する仕組みが出来ている。	管理者は年に2回職員と個別面談し、メンタル面のサポートを含め、意見・提案を聞く機会を設けている。法人役員も毎月訪れ職員との対話の機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修及び、目標に対する評価を行い、向上心が持て、働けるような環境作りに努めている。又、各職員に対し、適正な評価を行うように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に必要な研修は年間計画を立て行っている。又、外部研修参加も推奨している。研修参加者は、全体会議にて報告し、学習内容の整理と他職員への伝達トレーニングも実施している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和3年度は、グループホーム連絡会が開催されなかった為、行われていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、自宅訪問を行い、本人、ご家族の情報を聞き取り、他職員と共有している。入居後は、本人の訴えを傾聴し、ご家族と密に連絡を取りながら、ご本人に安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅介護の困難さや、不安について話を聞くと共に、入居した場合のメリットやデメリットを説明しご本人にとっての最善の方法を話し合う事で良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意思と緊急性等を加味した上で入居者を決定している。入居後の個別サービスについても、ご家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲や能力に応じて、出来る事はして頂く。又、手伝える事は手伝って頂き、お互いに助けあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や普段の来所時のご家族との交流により、良い事も悪い事もお伝えする中で、お互い協力し合っこそ、解決出来る事があると認識出来ている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人、御親戚等の面会も自由に行って頂き、電話連絡等も行って頂いている。	昨秋、緊急事態解除となり一時期直接面談が可能となった。正月には子供やお孫さんが面会に来られ喜ぶ顔が見られた。しかしまた感染拡大により制限され、本人のストレスが溜まらないか心配している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の態度や言葉、グループでの会話等から利用者間の関係を把握している。孤立させない様に席を工夫したり、和める会話に切り替える等工夫を行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々に居室担当を決めて、担当職員が日々の関りから意向を聴き出し、リーダーや計画作成者と相談して本人の意向に沿うよう努めている。	日常の会話で困ってないか聞いたり、表情や行動の変化を見逃さないよう努め、フロア会議で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りやアンケートにより把握している。又、入居後は、ご家族やご本人との会話から聞き取り、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、会議での報告等により、日頃の健康状態や過ごし方等現状の把握が出来ている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当がモニタリングを行っている。介護計画見直し時には、ご家族、ご本人、計画作成者、リーダー、居室担当等が集まり、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	居室担当を決め半年ごとに見直している。毎月のモニタリングで気付きや次に活かしたい事は、居室担当から聞き取り、家族の意見を反映して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応や、ケアの実践結果について意見や気づきをケア記録や申し送りノート等に記入して共有することで、新たな発見もあり、介護計画の見直し等行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、出前を取り、施設以外の食事を楽しんで頂くのみである。コロナ禍終息後は、スーパー等にもお連れして楽しんで頂いたり、柔軟に対応したい。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行う事が出来ていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医やかかりつけ医等必要に応じて受診が出来るように支援を行っている。又、受診できない方の為、往診して下さる医師との繋がりも持つ様支援を行っている。	協力医の内科医の訪問診療が月2回あり、健康管理を受けている。歯科医・歯科衛生士の定期訪問や心療内科の個別往診がある。他の専門医受診は家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自社の看護師が、毎週来所して、心身状態を確認している。状態悪化時も24時間対応しており、主治医との連携持っているので、安心できている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院紹介や、連携で安心して検査、治療が受けられている。入退院時においても都度病院に出向き、情報交換や相談を行っており、良好な関係が気づけている。	現在はコロナ禍で面会出来ないが、看護師・相談員や地域連携室と情報交換を行い、安心して治療に専念頂いている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての取り組みを家族会で話し、アンケートによるご家族の意向も聞き取っている。看護師、医師とも協力体制は出来ており、看取り時には、改めてご家族を加え話し合い支援を行っている。	入居時に緊急時や看取りについて説明し、アンケートを取り、本人や家族の意向を聞いている。医師・看護師との協力体制は出来ており、あらためて本人・家族の意向を確認して、希望に沿い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へは、救急救命方法の研修を推奨している。防災訓練時にも研修を受ける等実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(近隣住民の協力・本年度なし)防災訓練を行い、他に年1回自主防災訓練も行っている。又、地域の防災訓練にも参加しており、協力体制を築いている。	起こりうる災害の一番は、地震とそれに伴う火災ととらえ、夜間や休日を想定した訓練に重点を置いている。コロナ禍で消防や近隣の参加はないが、消防の立入検査で指導を受けている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室は個浴、居室も個室であり、プライバシーの配慮を行い、権利擁護や虐待の研修も行い、プライバシーやプライドについても配慮した対応を心掛けている。	利用者の自由な時間を尊重し、見守り、特性や状況に合わせた対応をしている。接遇面は、スキルアップ研修により繰り返し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の出来る入居者には自己決定を尊重し、意思表示が出来にくい入居者については、言葉を選んだり、選択肢を提示する等希望を確認する工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね一日の流れは有るが、その日の個々の状況やペースに合わせて、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選ぶ、整髪、男性の髭剃りなどをお手伝いして、1日を爽やかに過ごして頂ける様に支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房職員が作っていましたが、12月より外部で作った食事を提供している。食事前のテーブル拭きや、オンボリたたみ等は、行える方に手伝ってもらっている。会話の中でどのようなおやつが食べたいのか聞き取るようにしている。	コロナ禍で物価の動向等で、職員の調理を止めて外部で調理済の食事に変えた。ご飯は施設で炊くようにしており、準備や後片付け等入居者と一緒に行っている。	コロナ禍で大変であり、配色サービスも良くなっていると思われるが、GHでの食事を楽しむの指針にたち、家族の意見も聞き、コロナ後を見据えての検討を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量を記録し、把握している。食べ易い形態で提供したり、ゼリーや好きな飲み物を提供する等工夫している。又、主治医や歯科医師と連携し、原因の改善にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施。又、月2回、歯科医師、歯科衛生士の口腔ケアを受け、職員への指導もあり、連携して口腔ケアを実践している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のオムツ使用形態や排泄パターンを記録し、職員間で共有している。パターンを活かし、日中は、トイレ誘導を行う等工夫している。	排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。声掛けは小声で行い、羞恥心に配慮している。ポータブルトイレを利用している方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により不穏となり、その後に及ぼす影響を個々に把握し、トイレ誘導のタイミング、服薬コントロールを共有している。又、腹部マッサージ、水分補給など個々に応じた予防を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者1人に対し、週2回から3回実施している。入浴拒否等がある場合は、時間を空ける、声掛けの職員を変える、二人で対応する等入居者に応じた対応を心掛け、気分良く入浴できるよう支援を行っている。	2階には特殊浴槽が有り、重度化してもゆったり、入浴で寛いで頂いている。入浴を拒まれるときは、時間をおいたり職員を変えたり、翌日に変えたり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握して、入眠時間も個々に対応している。眠れない時には、気分が落ちつき眠れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書にて、薬の用法等理解している。又、疾病との関係性にも注意し、症状の変化等有れば、主治医に相談し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、好みを把握すると共に、現在の体調や趣味も加味した上で、レクリエーションの参加を促している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は行っていない。ご家族間のやむない事情のみ対応している。	コロナ禍で外出は難しいが、事業所を一步出たら閑静な住宅街で、天気の良い日は少しでも散歩を、また、部屋からベランダへ出ると、素晴らしい風景が広がっている。外の空気に触れ、気分転換に努めている。	



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や、貴重品の持ち込みはお断りしています。買い物や希望に応じての使用については、立て替えをしており、可能な限りの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みはお断りしています。手紙のやり取りは自由です。電話は、希望された時は、施設の電話を使用して頂いています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な環境や季節感を感じて頂ける様な装飾に努め、居心地の良い様に工夫しています。	壁やリビングに季節ごとの飾りを利用者と一緒で作成して飾っている。お正月は、参拝に行けないので「こころ神社」を作り、お参りいただいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や、テーブルは組み合わせが自由にできる家具を使用し、その時々状況や雰囲気等で組み合わせを変える等工夫し、気兼ねなく過ごせる居場所を作っています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に、使い慣れた家具や道具を持ち込まれ、居心地よく工夫して、過ごされている。	居室は自宅で使用されていた家具や道具を持参頂き、思い思いに部屋作りして頂いている。季節ごとの模様替えやシーツ・カバー類の洗濯も定期的に行い、清潔な環境に心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面は、両端を自立型に、中央は介護型に配置する等それぞれの心身機能に応じて自立を支援できるよう工夫している。		

## 基本情報

事業所番号	2893100046
法人名	株式会社ケアマインド
事業所名	グループホームこころ川西
所在地	川西市大和西5-24-2 電話 072-744-2324

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【情報提供票より】令和 3年 12月 29日事業所記入

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 22年 7月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	21 名	常勤 7名 非常勤 14名	常勤換算 12.4名

### (2) 建物概要

建物構造	単独型
	木造造り 2階建ての1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	共益費	20,000 円	
		水道光熱費	27,500 円	
敷金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有り 255,000円	有りの場合 償却の有無	退去時に原状回復費用 等を差し引いて返却。	
食材料費	朝食	340 円	昼食	560 円
	夕食	560 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,560円			

### (4) 利用者の概要(令和 3年12月 29日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 89.4 歳	最低	83 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 協和回 協立病院
---------	---------------

## 目標達成計画

作成日: 令和 4 年 2 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○食事を楽しむことのできる支援 12月より外部で作った副食を提供している。 主食(ご飯)汁物は施設で調理して提供している。	副食は外部委託になりなしたが、主食は施設調理しているので、炊き込みご飯やちらし寿司赤飯等工夫し入居様に楽しんで食事をして頂けるようにする。 手作りおやつ・おやつレクをして一緒に作り楽しく過ごして頂けるようにする。	1、炊き込みご飯・ちらし寿司・赤飯 等工夫し入居様に楽しんで食べて頂ける様にする。 2、ご入居様に準備や後片付け一緒にして頂く 3、家族会へR4/1吉日近況状況報告を配布し意見書を頂きました。意見を参考に、より良い食事を提供出来るように取り組んで参ります。 4、おやつレクで手作りおやつ(季節感のある等)を提供して参ります。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式2(2))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )